

## 第27回FDフォーラム 報告集

### 第10分科会

# 学生支援の「場」を問い直す ～コロナ禍での現状と課題～

#### 報告者

高石 恭子氏      甲南大学 文学部 教授／学生相談室 専任カウンセラー  
林 潤一郎氏      成蹊大学 学生サポートセンター学生相談室 専任カウンセラー（経営学部 教授）  
藤原 めぐみ氏      京都文教大学 障がい学生支援室 職員

#### コーディネーター

浦野 由平氏      京都文教大学 臨床心理学部 特任講師

P1～ コーディネーターによる総括      浦野 由平 氏

P4～ 講演1. 「学生支援におけるキャンパスという『場』の意義」  
高石 恭子 氏

P13～ 講演2. 「コロナ禍での実践例①：学生相談の現場から」  
林 潤一郎 氏

P16～ 講演3. 「コロナ禍での実践例②：コロナ禍での障害学生支援」  
藤原 めぐみ 氏

## 企画概要

コロナ禍において、我々の生活様式は大きく変化した。大学においては、これまで「対面」が当たり前であった授業が「オンライン」で行われるようになり、授業におけるICT活用が積極的に推進されている。このような「場」の変容は、学生支援の現場でも起こっている。対面での相談が困難な状況の中で、学生支援はどのように行われているのだろうか。また、コロナを経て、今後学生支援の「場」や実践活動はどのように変容していくのだろうか。

本分科会では、コロナ禍で学生支援に携わってきた3名の登壇者に対面およびオンラインでの学生支援の実践例等をご紹介いただき、今後の学生支援における「場（キャンパス）」の意義について検討した。当日のスケジュールは以下の通りであった。

## スケジュール

- 9:30-9:35 コーディネーターによる分科会の趣旨説明
- 9:35-10:05 甲南大学 高石恭子先生によるご報告
- 10:05-10:35 成蹊大学 林潤一郎先生によるご報告
- 10:35-11:05 京都文教大学 藤原めぐみ先生によるご報告
- 11:05-11:30 質疑応答

## 報告の概要

各登壇者からの報告の概要を以下に示す。詳細については、本報告書に掲載された発表資

## 学生支援の「場」を問い直す～コロナ禍での現状と課題～

コーディネーター

浦野 由平 氏(京都文教大学 臨床心理学部 特任講師)

---

料に記載されているので、そちらをご参照いただきたい。

まず、日本学生相談学会の理事長でもある甲南大学の高石恭子先生より、学生支援におけるキャンパスという場の意義についてお話しいただいた。具体的には、コロナ禍での学生支援の状況や取り組みをご紹介いただいた上で、コロナによる学生の体験様式の変化、キャンパスという「場」の喪失による影響についてお話しいただいた。ご報告の中では、キャンパスという場の喪失により、図書館へふらっと立ち寄り面白い本に出会うなどの「人、モノ、知との偶然の出会いが失われた」というお話が印象的であった。

続いて、成蹊大学にて学生相談に携わっていらっしゃる林潤一郎先生より、コロナ禍での実践例についてご報告いただいた。具体的には、コロナ以前(2019年度)とコロナ禍(2020年度)における相談統計の比較を通して、利用学生・相談内容・相談サービスの特徴についてお話しいただいた。コロナ禍において単回の相談が増加したことについて、必要な情報を得るなど、これまで自然な雑談や人間関係の中で解消できていたものが、キャンパスという場が失われることで解消できなくなったことが背景にあるのでは、というご指摘が印象に残っている。これは高石恭子先生のお話にあった「偶然の排除」にも関わると考えられる。

最後に、京都文教大学の藤原めぐみ先生からは、コロナ禍での障がい学生支援における実践例についてご報告いただいた。当日は具体的な事例をいくつかご紹介いただきながら、実践を通して見えてきたことについてお話しいただいた。対面・非対面の利点はそれぞれあるものの、学生及び教職員の「支え合い」「連携」の醸成には「場」が重要である、というお話が印象的であった。報告の中でご紹介いただいた学生支援の具体的な実践・工夫は、大学

## 学生支援の「場」を問い直す～コロナ禍での現状と課題～

コーディネーター

浦野 由平 氏(京都文教大学 臨床心理学部 特任講師)

---

の規模に関わらず、支援のあり方を考える上で参考になる内容であった。

以上の報告を受け、最後は質疑応答の時間を設けた。3名の登壇者にフロアからの質問にいくつかお答えいただいた。具体的には、オンラインやメールの相談における留意点、コロナ禍における教職員・保護者との連携のあり方など、学生支援における具体的な工夫に関する質問を受けた。ご登壇いただいた先生方には、学生支援においては対面が重要であるという前提の上で、オンラインツール活用時の工夫や留意点についてお話しいただいた。

### まとめ

本分科会は「コロナ禍における学生支援」というテーマで実施されたが、全国から多くの大学教職員の皆様にご参加いただいた。各登壇者のご報告及び質疑応答から、キャンパスという「場」の意義が改めて確認できたのではないかと思う。

最後に、ご登壇いただいた先生方、ご参加の皆様に深く感謝申し上げます。

第10分科会コーディネーター

浦野由平（京都文教大学 臨床心理学部 特任講師）

大学コンソーシアム京都 2021年度 第27回FDフォーラム  
第10分科会

## 学生支援の「場」を問い直す ～コロナ禍での現状と課題～

### 学生支援におけるキャンパスという「場」の意義



高石恭子（甲南大学）

## 目 次

1. はじめに
2. 学生相談・学生支援の現状
3. コロナ禍が加速する学生の体験様式の変化
4. キャンパスという「場」の喪失により何が起きたか
5. こころの「密」を回復するために

# 1. はじめに



甲南大学カウンセリングセンター メインエントランスと水庭

学生相談室専用入口



コロナ禍の新しい住人



## 2. 学生相談・学生支援の状況

### 全国

(日本学生相談学会 2018年度学生相談機関に関する調査報告)

**設置率** 大学97.4% 短大77.8% 高専100.0%

#### 専任Co.配置

大学34.9% 短大 2.4% 高専 5.4%

#### 学生1万人あたりのCo.数

大学 3.5人 短大 3.6人 高専 2.4人

**来談率** 大学 4.5% 短大 8.8% 高専 10.9%

#### 年間利用のべ数

大学 909 短大 135 高専 372

### 甲南大学

(3キャンパス 8学部5研究科 学生数約8,800)

#### 組織形態

カウンセリングセンター { 学生相談室  
心理臨床カウンセリングルーム

#### Co.配置

専任2人、非常勤7人(週1~週5) + 精神科医(月2)

#### 来談率(オンライン利用含む)

2018年度 3.9% 2019年度 4.1%

2020年度 4.0%

#### 年間利用のべ数

2018年度 3,328 2019年度 4,058

2020年度 4,043 2021年度 4,156 (1月末)

前年度同月までの2.5割増



## 甲南大学学生相談室におけるコロナ禍の取組み

- 2020年4月からハイブリッド対応（対面、電話、Web会議システム、例外的にメールと手紙）
- 学生入構禁止期間も予約カウンセリングは例外措置による対面実施継続
- 利用件数（のべ）は2020年度は通年で前年度並み、今年度は例年より大幅増加
- 教職員へはメールコンサルテーション実施
- 2020年5月に「特設サイト」公開 

<https://konan-gakuso.wixsite.com/tokusetsu>

利用案内動画、新入生支援、就活生支援、  
FD・SD資料、コロナストレス対処法、こころの  
健康支援、生活支援（とくに下宿生向け）、  
カウンセラーのエッセイなどを配備

- 2020年度後期から対面グループ活動・居場所支援・新入生授業支援再開
- 正課授業の提供とその中でのこころの健康支援（遠隔と対面による五感のトレーニングなど）
- 学内ネットワークシステムやLINEを活用した広報やイベントのオンライン申込開始



## コロナ禍で試みられている多様な支援活動

- 札幌学院大学学生相談室「セラピードッグ エース」動画配信

<https://www.youtube.com/watch?v=nvS5sRkryI>

- 筑波大学学生相談室「T-ACT 筑波の春を取り戻せ」他

<https://www.t-act.tsukuba.ac.jp/project/view/?seq=481>

- 名古屋大学学生支援センター「食糧支援」「総長の等身大パネル」「クラス長会」（オンライン）「学生と総長との対話」「新入生・全学アンケート」「アニメ制作」「ラジオ番組制作と配信」（年末年始～）

<https://www.youtube.com/watch?v=zIp1oP4441k>

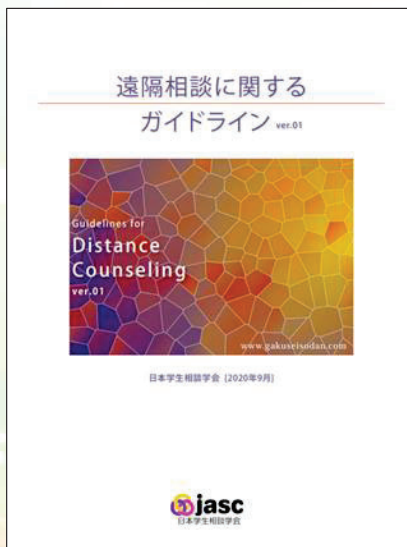
- 大阪府立大学WEB学生サービスセンター「心の相談」

<https://websc.ao.osakafu-u.ac.jp/counseling/>



## 日本学生相談学会の取組み「遠隔相談に関するガイドラインver.01」

[https://www.gakuseisodan.com/wp-content/uploads/2020/10/enkaku\\_soudan\\_guideline\\_ver01.pdf](https://www.gakuseisodan.com/wp-content/uploads/2020/10/enkaku_soudan_guideline_ver01.pdf)



### 【要点】

- ・当学会が発信してきた内容と、アメリカのHigher Education Mental Health Alliance (HEMHA) による遠隔相談ガイドを参照しつつ、我が国の学生相談への適合性を考慮して作成。
- ・遠隔相談を「相談者とカウンセラーが別々の場所にいる状況で、何らかのコミュニケーションツールを用いて行われる相談活動」と定義する。電話、メール、チャット、ウェブ会議システム等による相談が該当する。
- ・遠隔相談は、単に対面相談の代替手段ではなく、多様な相談方法の一つと考える。
- ・遠隔相談特有の利点・リスク・留意点、倫理などを理解し、適切に利用できる力を身につける必要がある。

2020年9月

遠隔相談はコロナ後も発展する学生支援のNew Normal

## 3. コロナ禍が加速する学生の体験様式の変化

### デジタルネイティブ世代

2000年代～

物どころついた頃から携帯電話があり、インターネットを駆使する学生生活



### ネオ・デジタルネイティブ世代

2010年代～

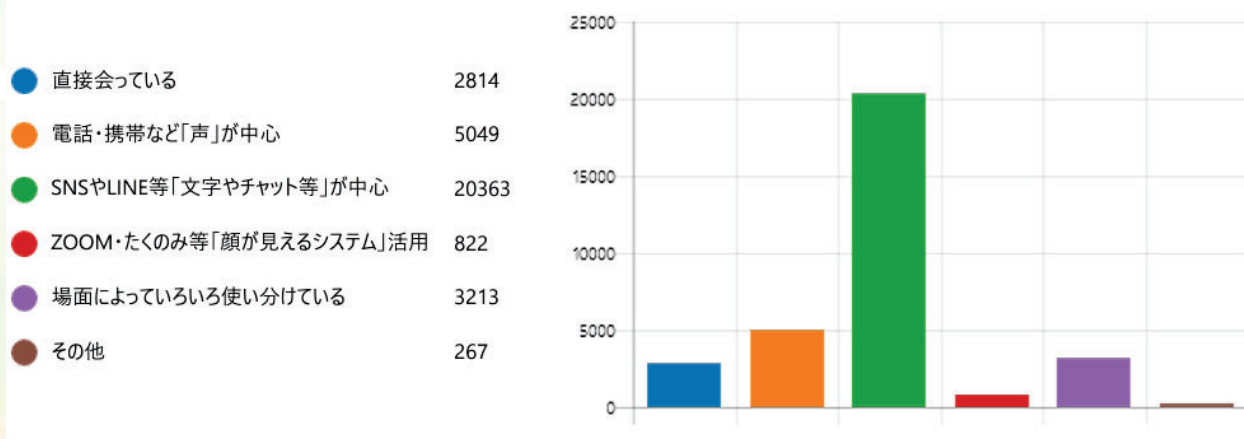
スマホやタブレット端末を個人で保有し、ソーシャルメディア（ブログ、SNS、動画共有サイト）やクラウドコンピューティングを駆使する学生生活

…もはや、ファビングphubbingは日常の光景





相談できる人との情報交換・相談事には何を使いますか？



大事なコミュニケーションも、対面から遠隔へ、対話から文字へ

## ➤気になるデータ

- 親や組織への従順（主体性の低下）

### 📄 第3回 大学生の学習・生活実態調査報告書（2018）

（ベネッセ教育総合研究所）

保護者のアドバイスや意見に従うことが多い

40.1%（2008） → 49.7%（2016）

困ったことがあると、保護者が助けてくれる

41.8%（2008） → 57.8%（2016）

大学での学習の方法は、大学の授業で指導をうけるのがよい

39.3%（2008） → 50.7%（2016）

学生生活については、大学の教員が指導・支援するほうがよい

15.3%（2008） → 38.2%（2016）

- empathy gap (共感ギャップ)

Sara Konrath, et al. (2011)

Dispositional Empathyに関するデータ (1979～2009) のメタ分析

アメリカの大学生の共感能力は20年間で40%低下

とくに2000年以降の低下率が顕著

共感的関心 empathic concern 48%低下

視点取得 perspective taking 34%低下



➤これらの現象の要因と考えられること

- デジタルネイティブ世代の「人と共に居る体験」の減少
- インターネット時代の自己の複数化 (ゆるやかに解離する多元的自己)
- 少子化による子育てと親子関係の変化
- 新自由主義社会の大学生に対する「成功」への圧力の高まり  
例) GPA制度の導入



コロナ禍の遠隔授業・リアルなキャンパスライフの喪失が、さらに  
学生の体験様式の変化を加速し、新たな高等教育の課題を  
生み出しているのではないか

## 4. キャンパスという「場」の喪失により何が起きたか

### ➤ 高等教育という観点から

- 平等で対等な学びの「場」の喪失

*"College Made Them Feel Equal. The Virus Exposed How Unequal Their Lives Are."*  
The New York Times April 4, 2020

「新型コロナで露呈する学生の『格差』問題」（朝日新聞「論座」2020.4.11）

- 人、モノ、知、との偶然の出会いという「体験」の喪失

最大の感染拡大防止は最大の偶然の排除

- それぞれの大学が醸成してきた文化（あるいは暗黙知）の継承の中断

### ➤ 学生期の心理発達課題という観点から

- 親子の分離-自立の遅れ

Stay Homeがもたらす初年次適応の問題

- 家族間葛藤の調整の負担

もともと抱えていた葛藤の顕在化・症状化

- 青年期の自己形成の困難化

社会的距離、課外活動・アルバイトなどの制限による「体験」の不足



## 5. こころの「密」を回復するために

「学生支援＝全学生の成長支援」に求められること

### ➤ 「密」の再評価

コロナ禍で忌避される3密（密集・密接・密閉）



学生のこころの成長（人間形成）のために重要なのは  
青年期の3密（濃密・親密・秘密）（岡田, 2021）

学生のこころの「密」を回復するために何ができるか

### ➤ 「体験」 Erlebnis の提供      ≠ 「経験」 Erfahrung

体験とは、

- ・人間の主体としてのほたらきそのもの、世界との主観的で個別的な、1回性の直接的な生（なま）の出会い（Dilthey.W.）
- ・五感を通して身体まるごとが関与するもの

他者と共に「居る」「感じる」体験が、主体性subjectivityや共感性empathic concernを育む基礎となる



これからの学生支援において、とりわけ学生相談がもっておきたい視点

## 文献・資料

- ベネッセ教育総合研究所 2018 第3回 大学生の学習・生活実態調査報告書  
<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=5259>
- 橋元良明・奥律哉・長尾嘉英・庄野徹 2010 ネオ・デジタルネイティブの誕生 日本独自の進化を遂げるネット世代 ダイアモンド社
- Konrath, S. H., O'Brien, E. H., & Hsing, C. 2011 Changes in Dispositional Empathy in American College Students Over Time: A Meta-Analysis. *Personality and Social Psychology Review*, 15(2), 180–198.
- 岡田暁宣 2021 コロナ禍における日常生活と心理臨床の経験に関する私的考察 荻本快・北山修 編著「コロナ禍と精神分析的臨床『会うこと』の喪失と回復」木立の文庫 133-143
- 鈴木健一・杉岡正典・堀田亮・織田万美子・山内星子・林潤一郎 2019 2018年度学生相談機関に関する調査報告「学生相談研究」39（3）215–258
- 高石恭子 2020 学生相談室という場 「現代思想」Vol.48-14 特集 コロナ時代の大学 青土社 154-162
- 高石恭子 2022 コロナ禍が加速した学生の体験様式の変容について—こころの「密」の喪失と回復という観点からの一考察— 甲南大学学生相談室紀要第29号 40-52
- Turkle, S. 2016 *Reclaiming Conversation: The Power of Talk in a Digital Age*. Penguin Books. （日暮雅道訳 2017 一緒にいてもスマホ SNSとFTF 青土社）



## 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 第27回FDフォーラム 第10分科会

学生支援の「場」を問い直す ～コロナ禍での現状と課題～

### コロナ禍での実践例①： 学生相談の現場から

※ この資料は、事前資料および当日資料より一部抜粋したものです。

林 潤一郎

成蹊大学 学生サポートセンター学生相談室 専任カウンセラー  
(経営学部教授(心理学担当))  
junichiro.hayashi@bus.seikei.ac.jp

## 目的

- 2020年度(コロナ禍)の相談統計から、学生の利用状況(変化の有無)の把握
  - 2020年度の相談内容に、これまで(2019年度)とは異なる特徴がみられたのか？
  - 学生相談室がどのように機能できたか？
- ⇒全体として、**コロナ禍における大学生の悩みやニーズと、学生支援体制の様相**について考察

## 相談統計の報告概要 (考察の視点)

〔前提：2020年度より、新規申込Webフォーム・Zoom相談・メール相談の導入(ハイブリッド相談体制構築の試み)〕

- 2020年度の「活動報告」(成蹊大学学生サポートセンター年報)の相談統計 + 2019年度(コロナ禍前) との比較
  - 利用学生の特徴
  - 相談内容の特徴
  - 相談サービスの特徴

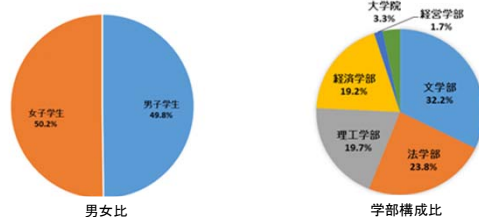
## 利用学生の特徴

## 相談の利用人数・のべ回数

| 学生   | 件数        | 経済学部      | 経営学部     | 理工学部      | 文学部       | 法学部       | 大学院<br>(成蹊大学院生) | 合計          |
|------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------------|-------------|
| 男子学生 | 実人数<br>のべ | 23<br>366 | 3<br>456 | 39<br>240 | 22<br>240 | 25<br>340 | 7<br>74         | 119<br>1515 |
| 女子学生 | 実人数<br>のべ | 23<br>176 | 1<br>2   | 8<br>61   | 55<br>635 | 32<br>408 | 1<br>43         | 120<br>1426 |
| 学生小計 | 実人数<br>のべ | 46<br>542 | 4<br>41  | 47<br>517 | 77<br>875 | 57<br>748 | 8<br>117        | 239<br>2840 |

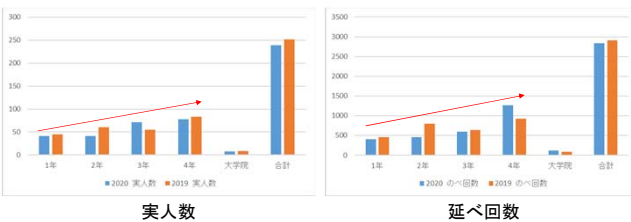
- 実人数239人(在籍学生数の3.1%)、延べ回数2840回
  - 参考：コロナ禍前の2019年度は、学生相談室と障がい学生支援室を合算した数値(年度途中でセンター化)で実人数(252人)、延べ回数(2909回)
- 入校が制限された期間も多い中であっても、**例年とほぼ同等**(実人数はやや減だが、学生相談室単体でみれば同等以上)の利用を維持。
- コロナ禍前の同規模大学の全国平均(鈴木他、2018)と比べても、実人数、のべ相談回数、来談率すべてにおいてやや上回っている。
- のべ相談回数利用については約2倍。**充実した学生支援の提供を示唆**

## 利用学生 男女比・学部比



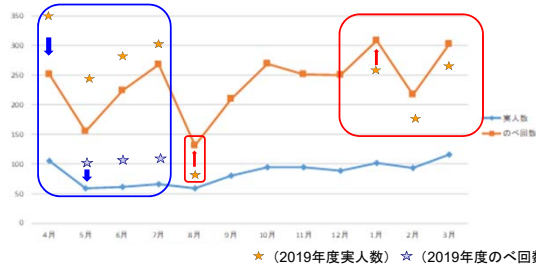
- 男女比：全体でみると、**男女が同程度利用**。
- 学部構成比：**全学部の学生が利用**(※経営と大学院は母数が少)。  
⇒ 例年と同様の傾向

## 学年ごとの利用学生数とのべ回数



- 例年: どの学年も一定数利用。全体としては、**学年が上がるほど** (特に4年生で)、利用学生数とのべ回数、ともに**増加傾向**
- 2020年度の特徴: **全体では2019年度と比べて大差なし**。2019年度と比べて...
  - 実人数: 1年生は大差なし。2年生が少なめ。3年生がやや多め
  - のべ回数: 1年生は大差なし。2年生が少なめ。4年生が多め。
- ※ **ただし、月ごとの推移や学年ごとの傾向差が交錯している可能性**

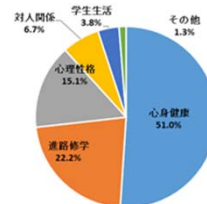
## 利用学生の月ごとの推移



- 前期が例年より**少なめ**。(利用制限+優先対応/生活優先で相談ニーズ低下?)
- 入校制限、オンライン(ハイブリット)相談体制を構築中でメール対応が主になったこと、トリアージ(リスク評価)に基づく対応学生の選定も影響
- 夏休み(8月)は**増加傾向** (遠隔相談導入による**アクセシビリティのメリット**)
- 後期にはZOOM・メール・電話・対面の相談体制が整い、**通常(以上)**の利用に。

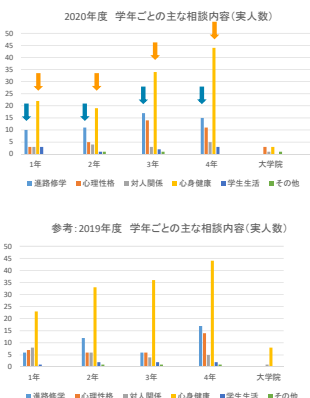
## 相談内容の特徴

## 主な相談内容



- 主な相談内容としては**心身健康**が一番多い(前年度57%)
- ※ 実際は内容が重複している学生が多い。重複時は心身健康で換算しているため、数値が増えている可能性あり
- 前年度との比較では、**進路修学**が増加傾向(前年度16.3%)

## 学年ごとの主な相談内容の違い



- 2020年度でみると
  - どの学年でも**心身健康**が多く、次いで、**進路修学**が多い。対人関係は少なめ。
  - 3年、4年では**心身健康**とともに**進路修学**や**心理性格**も増加傾向(学修難度や就活が関係している可能性)
- 2019年度と比べると
  - **進路修学**が1年、3年で増加傾向
- ⇒ **修学サポートが一層必要?**

## 相談サービスの特徴

## 相談の継続性

面接回数別人数

| 回数  | 1     | 2     | 3    | 4~9   | 10~19 | 20~29 | 30~   | 合計      |
|-----|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 実人数 | 53    | 35    | 15   | 45    | 38    | 23    | 30    | 239     |
| 割合  | 22.2% | 14.6% | 6.3% | 18.8% | 15.9% | 9.6%  | 12.6% | 100.00% |

- 2019年度と比べ、
  - 1回のみの相談が増加(前:18.3%)
    - ⇒ 学生生活に関する疑問や現実的な情報が欲しいなどの悩みが増加したこと起因している可能性
  - 一方で、30回以上の学生も例年通り(以上)で一定数存在(前:10.3%)
    - ⇒ 長期的支援が必要な学生への対応も重要となることを示唆

## 来談経路(全体および各学年)

|             | 全体  | 1年生    | 2年生 | 3年生    | 4年生 | 大学院    |    |        |    |        |
|-------------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|----|--------|----|--------|
| 自主来談        | 179 | 74.90% | 28  | 68.20% | 47  | 66.20% | 62 | 79.49% | 6  | 75.00% |
| 教員          | 17  | 7.11%  | 5   | 12.20% | 1   | 2.44%  | 7  | 9.86%  | 2  | 25.00% |
| 大学保健室       | 16  | 6.69%  | 3   | 7.32%  | 5   | 7.04%  | 5  | 6.41%  | 0  | 0.00%  |
| 教養部         | 0   | 0.00%  | 0   | 0.00%  | 0   | 0.00%  | 0  | 0.00%  | 0  | 0.00%  |
| 学生生活課       | 0   | 0.00%  | 0   | 0.00%  | 0   | 0.00%  | 0  | 0.00%  | 0  | 0.00%  |
| キャリア支援センター  | 0   | 0.00%  | 0   | 0.00%  | 0   | 0.00%  | 0  | 0.00%  | 0  | 0.00%  |
| 入試センター      | 0   | 0.00%  | 0   | 0.00%  | 0   | 0.00%  | 0  | 0.00%  | 0  | 0.00%  |
| 学内その他       | 0   | 0.00%  | 0   | 0.00%  | 0   | 0.00%  | 0  | 0.00%  | 0  | 0.00%  |
| 学外(高校・医療関係) | 2   | 0.84%  | 0   | 0.00%  | 0   | 0.00%  | 1  | 1.41%  | 1  | 12.50% |
| 保護者         | 25  | 10.46% | 5   | 12.20% | 1   | 2.44%  | 11 | 15.49% | 8  | 10.26% |
| 計           | 239 |        | 41  |        | 41  |        | 71 |        | 78 |        |

- 全体では、自主来談が主。各学年も共通。
- 次いで、保護者、教員からの紹介、大学保健室からの紹介が多い。
- 学年別の特徴としては
  - 1年生で、教員からの紹介が多かった。
  - 学年問わず、大学保健室(スクリーニングアセスメント含む)からの紹介は例年通り(連携体制の重要性を示唆)

## 相談形式

主たる相談形式の割合(単一選択)

|      | 全体  | 1年生    | 2年生 | 3年生    | 4年生 | 大学院    |    |        |    |        |   |        |
|------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|----|--------|----|--------|---|--------|
| メール  | 45  | 18.83% | 6   | 14.63% | 10  | 24.39% | 14 | 19.72% | 13 | 16.67% | 2 | 25.00% |
| ZOOM | 183 | 68.20% | 26  | 63.41% | 26  | 63.41% | 47 | 66.20% | 59 | 75.64% | 5 | 62.50% |
| 電話   | 20  | 8.37%  | 4   | 9.76%  | 4   | 9.76%  | 7  | 9.86%  | 4  | 5.13%  | 1 | 12.50% |
| 対面   | 11  | 4.60%  | 5   | 12.20% | 1   | 2.44%  | 3  | 4.23%  | 2  | 2.56%  | 0 | 0.00%  |
| (計)  | 239 |        | 41  |        | 41  |        | 71 |        | 78 |        | 8 |        |

各相談形式の利用率(複数選択)

|      | 全体  |        | 1年生 |        | 2年生 |        | 3年生 |        | 4年生 |        | 大学院 |        |
|------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|
| メール  | 151 | 63.18% | 26  | 63.41% | 26  | 63.41% | 46  | 64.79% | 47  | 60.26% | 6   | 75.00% |
| ZOOM | 170 | 71.13% | 27  | 65.85% | 26  | 63.41% | 50  | 70.42% | 62  | 79.49% | 5   | 62.50% |
| 電話   | 58  | 24.27% | 8   | 19.51% | 11  | 26.83% | 17  | 23.94% | 20  | 25.64% | 2   | 25.00% |
| 対面   | 18  | 7.53%  | 5   | 12.20% | 1   | 2.44%  | 5   | 7.04%  | 6   | 7.69%  | 1   | 12.50% |

- 2020年度から対面相談、電話相談に加えて、メール相談、Zoom相談を開始。
- 主な相談形式としては、Zoom相談を希望する割合(68.2%)が最も多く、次いでメール相談希望(18.83%)が多く、双方で80%以上を占めていた。対面希望は少数であった(全体および各学年でも概ね共通の傾向)。
- 各相談形式の利用率では、どの学生もZoomとメールを中心としながらも、必要に応じて、様々なツールを複合的に用いて相談を活用していることを示唆

## 連携・コンサルテーション

2020年度  
連携・コンサルテーション

| 連携先  | 実人数 | のべ回数 |
|------|-----|------|
| 家族   | 76  | 426  |
| 教員   | 90  | 354  |
| 職員   | 79  | 191  |
| 学外機関 | 28  | 87   |

2019年度  
連携・コンサルテーション

| 連携先  | 実人数 | のべ回数 |
|------|-----|------|
| 家族   | 68  | 350  |
| 教員   | 76  | 357  |
| 職員   | 78  | 263  |
| 学外機関 | 36  | 87   |

- 例年通り、家族、教職員、学外機関との連携体制も充実
  - 保護者・家族:実人数は大差ないが、延べ回数が増加傾向
  - 教員:実人数が増加(延べ回数は大差なし)
  - 職員:実人数は大差なし、延べ回数は減少
  - 学外機関:実人数は減少(延べ回数は大差なし)

## 入学前相談の利用状況

入学前相談の利用件数(実人数)

|     | 男子 | 女子 | 保護者(女性) | 保護者(男性) | 合計 |
|-----|----|----|---------|---------|----|
| TEL | 2  | 1  | 1       | 0       | 4  |
| 来談  | 0  | 0  | 0       | 0       | 0  |

- 例年、入学予定者(入試合格者)を対象とした、大学生活を始めるにあたっての種々の心配事や不安等の相談に応じている
- 人数は例年と大きな差はないが(前:電話1、来談2)、2020年度は来談はなく、全て電話による相談
- 人数は少ないものの、合理的配慮の事前準備につながるなど、重要な機能を担っているサービスとなっている

## まとめ

- 2020年度(コロナ禍)でも、ハイブリット相談体制を構築することで、学生支援サービスは継続でき、学生のニーズにもある程度応えることが可能。
- 悩みやニーズは、全体では、心身健康を主軸にしながらも、進路修学や心理性格。(オンライン化になり、全体的に対人関係は顕著に減少)
- 進路や就学にまつわる現実的な相談が増加する一方、全体としての不適応性の向上は確認されなかった。(個別事例では別)
- オンライン化に伴って、「入学適応」と「就職活動(や卒業研究)」へのサポートが一層有益になっていく可能性。
- オンライン授業(のメリット/デメリット)による学生の悩みや困り方に変化あり。オンラインで困難が減る学生がいる一方、学業にストレスや不満を感じている学生(や孤立感に苦しむ学生)もいる。
- さらに、対面の全面再開(移行)に伴う(再適応への)負担についても留意しながら学生支援や配慮を検討していく必要がある可能性。

2021年度 第27回FDフォーラム  
2022年2月27日（日）

第10分科会  
学生支援の「場」を問い直す～コロナ禍での現状と課題～

## コロナ禍での実践例 2： コロナ禍での障害学生支援

京都文教大学  
学生部 学生課 障がい学生支援室  
藤原 めぐみ

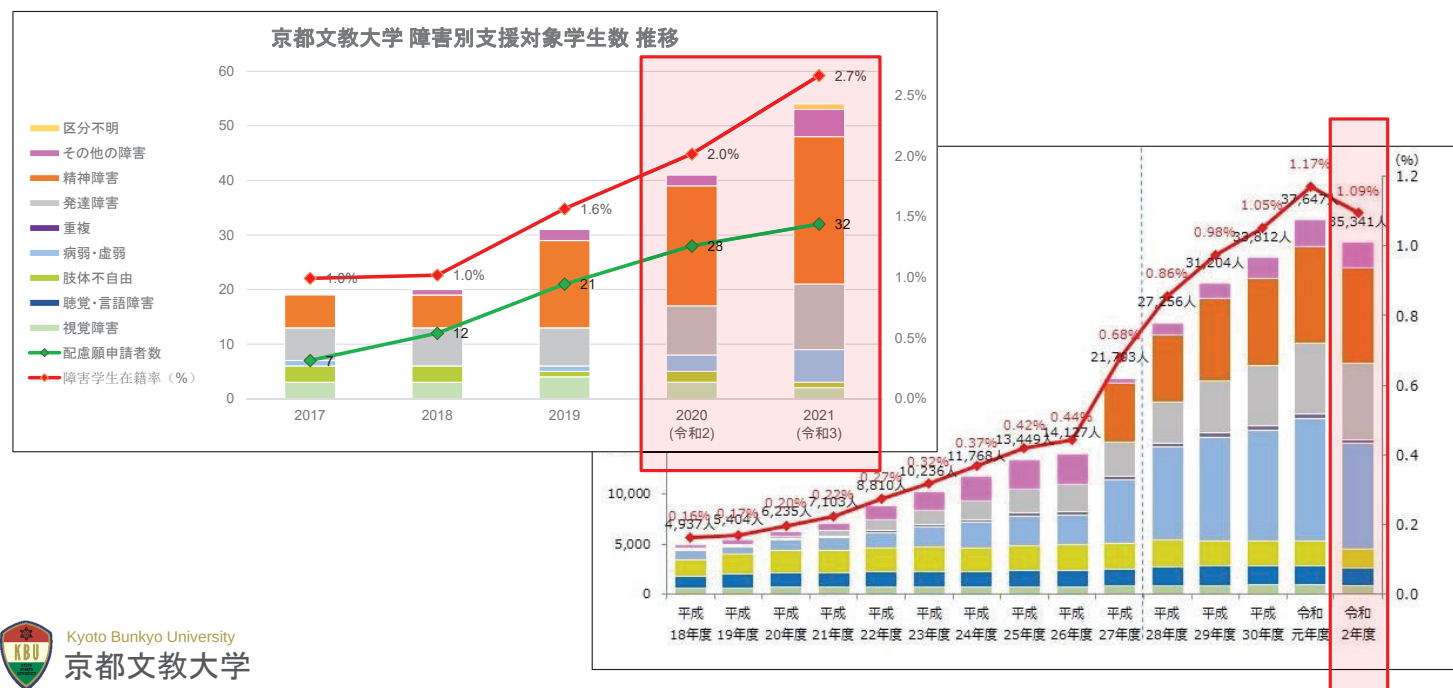


2021年度 第27回FDフォーラム  
2022年2月27日（日）

1. 支援状況
2. コロナ禍における支援の変容
3. アフターコロナの支援



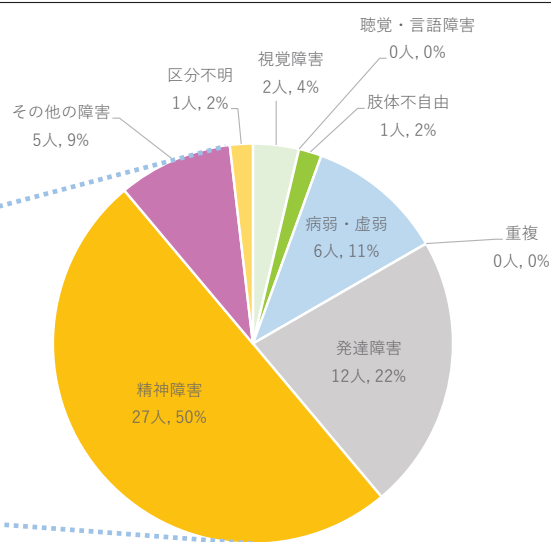
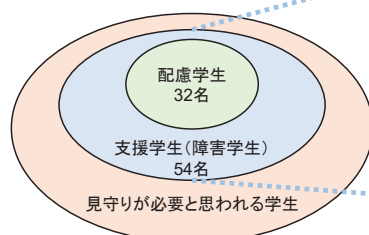
# 1. 支援状況\_2020-2021



# 1. 支援状況\_2020-2021

配慮学生＝支援申請を行っている学生のうち  
配慮願を申請している学生

支援学生＝障害学生支援を利用している学生  
(配慮願を申請していない学生を含む)



京都文教大学\_2021(令和3)年度 障害学生 (54名) 内訳



## 2. コロナ禍における支援の変容\_2020

授業開始

4月



5月

- 学生との面談方法
- 学内関連部署との情報共有の方法
- 支援委員会の開催方法
- 配慮願の提出方法
- 支援学生へのサポート方法

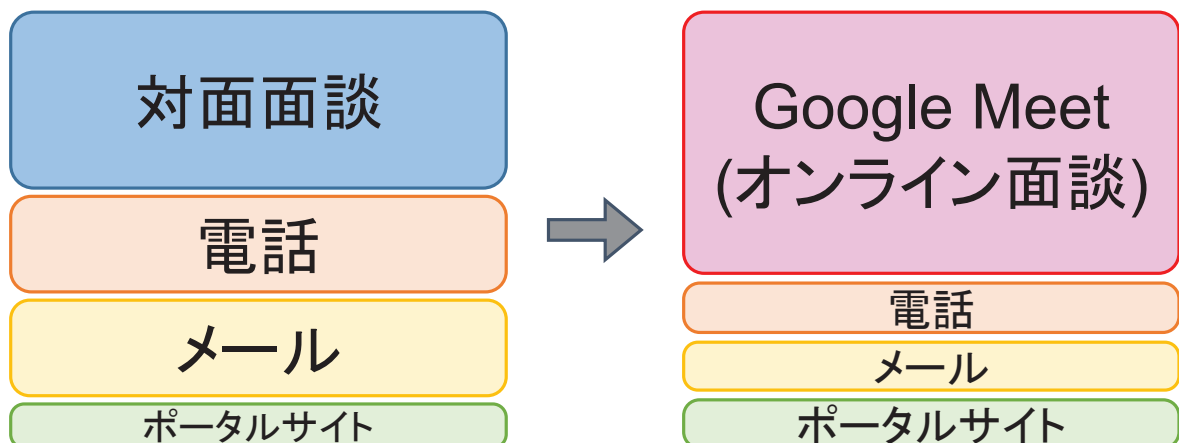
など



Kyoto Bunkyo University  
京都文教大学

## 2. コロナ禍における支援の変容

### ➤ 学生との面談方法



Kyoto Bunkyo University  
京都文教大学

## 2. コロナ禍における支援の変容

### ➤ 学生との面談方法

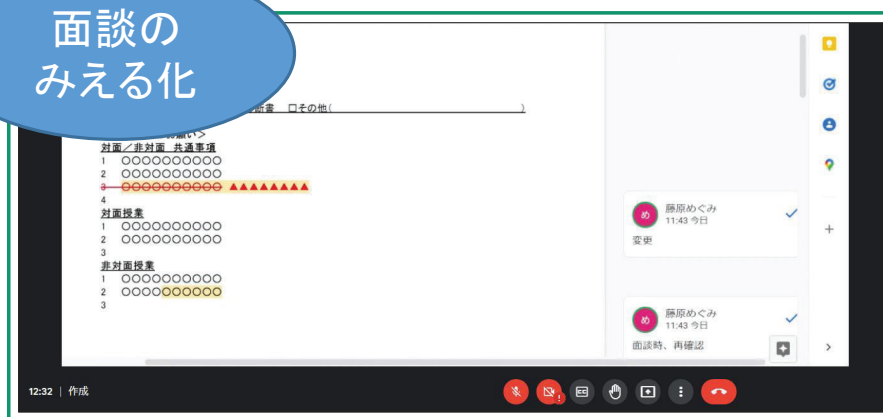
Google Meet  
(オンライン面談)

- ◎ ゆっくりと話げた
- ◎ 新しい一面に気付けた
- × 授業の前後にふらっと寄りぽろっと出る一言が聞けなくなった
- × 学内で学生を見かけた時の声かけができなくなった
- × 決められた時間に動くことが苦手な学生への対応に工夫が必要となった

## 2. コロナ禍における支援の変容

### ➤ 学生との面談方法

面談の  
みえる化



面談の  
タイミングの  
工夫

学生の  
意向に寄り添う  
面談方法

## 2. コロナ禍における支援の変容

### ➤ 学生との面談方法

面談の  
タイミングの  
工夫

- 教務スケジュールの共有
- 学生の特性に合わせた面談スケジュールの設定

面談の  
みえる化

学生の  
意向に寄り添う  
面談方法

## 2. コロナ禍における支援の変容

### ➤ 学生との面談方法

学生の  
意向に寄り添う  
面談方法

授業  
形態

学生の  
特性

出勤  
形態

面談の  
タイミングの  
工夫

面談の  
みえる化

## 2. コロナ禍における支援の変容\_2022

- 学生との面談方法\_2020～2022  
からみえてきたこと（京都文教大学の場合）

- ◆ 学内連携の重要性
- ◆ 細かい表情や動き、変化は感じ取れない
- ◆ 時間管理



Kyoto Bunkyo University  
京都文教大学

## 2. コロナ禍における支援の変容\_2020

授業開始

4 月



5 月

- 学生との面談方法
- 学内関連部署との情報共有の方法
- 支援委員会の開催方法
- 配慮願の提出方法
- 支援学生へのサポート方法

など



Kyoto Bunkyo University  
京都文教大学

## 2. コロナ禍における支援の変容

### ➤ 支援学生へのサポート方法

#### 「学習・学生生活支援サポートルーム」の取り組み



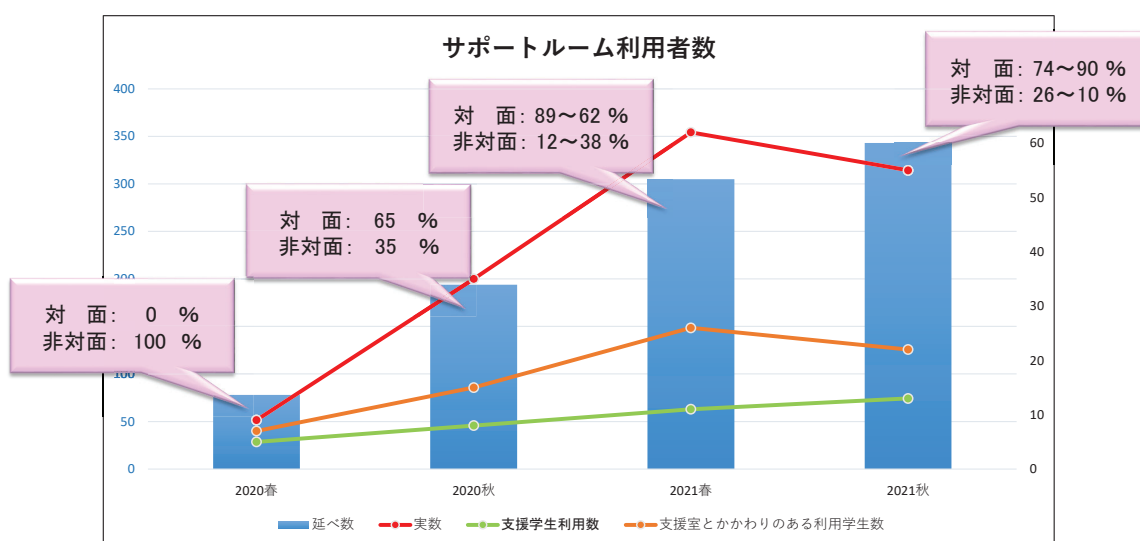
#### サポート例

- ・ 授業資料や課題、情報の整理を一緒に行う
- ・ UNIPAの情報を一緒に確認する
- ・ レポート作成の進め方を一緒に確認する
- ・ 参考資料の検索方法をアドバイス
- ・ 教員への連絡方法を一緒に確認する

など

## 2. コロナ禍における支援の変容

#### 「学習・学生生活支援サポートルーム」の取り組み



(注) 表中の対面／非対面授業の比率は学期始まりの時点での比率



## 2. コロナ禍における支援の変容\_2022

- 支援学生のサポート方法\_2020～2022  
からみえてきたこと（京都文教大学の場合）

- ◆ 「場」の必要性
- ◆ 学生同士が支え合う「ピアサポートの場」
- ◆ 一歩引いて見守る支援



Kyoto Bunkyo University  
京都文教大学

## 3. アフターコロナの支援

- ◆ 「場」の必要性
- ◆ 学内連携の重要性
- ◆ 学生同士の支え合い
  
- ◆ 細かい表情や動き、変化は対面でないと  
感じ取れない



Kyoto Bunkyo University  
京都文教大学

## 参考

- 日本学生支援機構(JASSO)\_障害学生支援  
[https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu\\_shien/index.html](https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/index.html)
- 京都文教大学
  - 障害学生支援 年次報告
  - 学習学生生活支援サポートルーム 年次報告
  - 授業形態比率 (2020年度, 2021年度)



Kyoto Bunkyo University  
京都文教大学